

授業科目(ナンバリング)	アカデミックジャパニーズⅡB (CA104)			担当教員	※下田 耕一		
展開方法	演習	単位数	2単位	開講年次・時期	1年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
日本語を総合的に学ぶため、日本語学習の機会が乏しかった留学生に対して、「聞き取り」や文法に重点を置き、アクティブラーニングの方法をもとにコミュニケーション能力の向上を図ることをねらいとしている。このことを通して日本語能力の中級から上級への円滑な移行、進展を目指す。							②③⑧ ⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	正解を求めるだけでなく、「よく考える」ことを通して積極的に日本語を読む・聴く・話す・書く活動を進めることにより、コミュニケーション能力を高めることができる。				発表 授業態度・参加度	15%	
情報収集、分析力	聞き手の側に立ち適切に分析することにより、日本語の表現・理解の修得を図り、レベルアップのための方法を見い出すことができる。				課題レポート 定期試験	30%	
コミュニケーション力	場に応じた音声言語による表現の工夫により、より高い日本語能力を身に付けるとともに情報発信力を付けることができる。				復習小テスト	25%	
協働・課題解決力	的確な語彙・語句の理解と活用を図り、言葉の決まりを理解して、日本語の特性の理解に努めるとともに相互の考えを発表することができる。				定期試験	20%	
多様性理解力	文化の違いを理解し多様な考えがあることを理解することを通して、自己の意見を適切に発表する能力を身に付けることができる。				発表 課題テスト	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の理解の定着を診断し、課題を見出し、以後の授業の改善に資するために復習小テストを行い、フィードバックする。 ・発表は、プレゼンやグループによる討議などを中心に行い、実践的な言語能力をみる評価として実施する。 ・課題レポートについては、授業の中で説明する。 							
授 業 の 概 要							
<p>総合的な日本語学習に慣れ親しみ、系統的に進めるため、①②③のステップによる学習活動を行う。</p> <p>① 学習テーマに取り組む動機付けの活動、② 文章を読み、大意をつかみ、内容理解を進め理解を深める活動、③ ②の活動を応用・発展させる速読や資料を読んで考察する活動、などにより多面的な理解とその拡充を図る。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：『新 生きた素材で学ぶ 中級から上級への日本語』（鎌田修他著 The Japan Times 社刊）</p> <p>参考書：適宜、紹介する。</p> <p>指定図書：教科書と同じ。（留学生には別途、授業中に指示する。）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
日本に留学している期間はもとより、将来の職業等においても相手や周囲の人々の心情やメンタリティを思い、適切な意思の疎通を図り、コミュニケーション能力を身に付けることが望まれる。このことを十分に認識し、積極的に取り組んでほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1 2	ユニット6 「働くということ(1)」	・仕事を選ぶ基準の理解と、「驚き・喜びは大切」の読解	予習 P94～104 復習 職業観と期待される職業人への理解
3 4	ユニット6 「働くということ(2)」	・グローバルビジネス（外国人社員の経験）を考える ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P105～113 復習 動詞・副詞の識別、重要表現の理解
5 6	ユニット6 「働くということ(3)」	・ユニット6 全体の重要事項の理解と確認	復習 職種、職業観への理解と意欲の喚起・醸成
7 8	ユニット7 「日本語の多様性(1)」	・言葉の持つ豊かさの理解と、「言葉の可能性」の読解	予習 P116～122 復習 外来語、豊かな心を育む言語への理解
9 10	ユニット7 「日本語の多様性(2)」	・言葉の乱れや揺れについて考える ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P123～130 復習 活用形、語彙の選択の理解、重要表現の理解
11 12	ユニット7 「日本語の多様性(3)」	・ユニット7 全体の重要事項の理解と確認	復習 言語に対する正しい理解と態度の醸成
13 14	ユニット8 「環境のためにできること(1)」	・エコ活動への理解と、「暮らしの無駄」の読解	予習 P132～140 復習 地球環境の保全への理解と取組み
15 16	ユニット8 「環境のためにできること(2)」	・自分たちにできる環境にやさしいエコ活動を考える ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P141～148 復習 自動詞と他動詞の識別、重要表現の理解
17 18	ユニット8 「環境のためにできること(3)」	・ユニット8 全体の重要事項の理解と確認	復習 地球の環境問題についての認識と実践
19 20	ユニット9 「食の共同性(1)」	・食の意義の理解と、「新しい食の共同性」の読解	予習 P150～156 復習 食の持つ意味の理解、食習慣の認識
21 22	ユニット9 「食の共同性(2)」	・個食と共食の違いからくる社会性のあり方を考える ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P157～162 復習 副詞・接続詞の理解、重要表現の理解
23 24	ユニット9 「食の共同性(3)」	・ユニット9 全体の重要事項の理解と確認	復習 食についての考察と文化的意義の理解
25 26	ユニット10 「笑いのちから(1)」	・様々な笑いの違いの理解と、「笑いの効能」の読解	予習 P164～170 復習 笑いとは文化、社会生活への影響の理解
27 28	ユニット10 「笑いのちから(2)」	・笑いが健康によいのはなぜか、経験をもとに考える ・「重要表現、文法・語彙練習」の演習・理解と短文作成	予習 P171～176 復習 動詞・接続詞、副詞的表現、重要表現の理解
29 30	ユニット10 「笑いのちから(3)」	・ユニット10 全体の重要事項の理解と確認	復習 笑いとは文化・芸能の関連についての理解
31	定期試験		